

勢多だより

SETA DAYORI

No. 102

2015年7月

平成27年度入学宣誓式

新任教員紹介

平成27年度新入生宿泊研修

第40回浜松医科大学との交流会

平成26年度卒業式

平成27年度
新入生歓迎



滋賀医科大学
SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

【メインテーマ】 平成27年度新入生歓迎

トピックス

- 01 平成27年度 入学宣誓式
- 03 平成27年度 新入生紹介

新任教員紹介

- | | |
|--------------------|-------------|
| 06 耳鼻咽喉科学講座 | 准教授 大 脇 成 広 |
| 07 社会医学講座(医療統計学部門) | 准教授 田中 佐智子 |
| 08 精神医学講座 | 准教授 栗 山 健 一 |
| 09 臨床教育講座 | 教 授 伊 藤 俊 之 |
| 10 基礎看護学講座 | 准教授 本田 可奈子 |
| 11 光学医療診療部 | 准教授 杉 本 光 繁 |
| 12 臨床研究開発センター | 教 授 久津見 弘 |

キャンパスライフ

- 13 平成27年度 新入生宿泊研修
- 16 第40回 浜松医科大学との交流会
- 18 リーダース研修
- 19 医師・保健師・助産師・看護師国家試験の結果
- 20 研究医養成コース活動紹介 生理学講座(統合臓器生理学部門) 編
医学科第6学年 黒 田 杏 理
生理学講座(統合臓器生理学部門) 教 授 等 誠 司

図書館からのお知らせ

- 22 本学教職員が薦めるこの本2015

インフォメーション

- 28 平成26年度 卒業式
- 30 平成26年度 学位授与式
- 31 平成26年度 学位論文学長賞等授与式
- 32 名誉教授の称号授与
- 32 第38回 解剖体納骨慰霊法要・納骨式

トピックス

Topics

平成27年度 入学宣誓式

学 長 塩田 浩平



入学式致辞

本日ここに、ご来賓各位のご臨席を賜り、教職員一同と共に平成27年度滋賀医科大学学部および大学院の入学式を挙行できますことは、本学にとって大きな喜びでございます。

滋賀医科大学に入学または編入学された医学科100名、看護学科70名の皆さん、おめでとうございます。また、新入生諸君を今日まで支えてこられたご家族ならびにご関係の皆様にも心からお慶びを申し上げます。

新入生の皆さんは、医師、看護師、あるいは医学や看護学の研究者になろうとする目的を持って入学試験を受験し、合格されました。いま皆さんが感じている喜びと新たな決意を忘れることなく、強い使命感を持ってこれからも勉学に励み、また医療の仕事に就いてからもたゆまず努力を続けていただきたいと思います。ぜひ、有意義で悔いのない大学生活を送ってください。

また、大学院博士課程へ進学された35名、修士課程へ進学された7名の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんには、医学・医療と看護学の分野で様々な研究テーマに取り組み、独創的な研究成果を挙げて医学と看護学の進歩に寄与されることを期待いたします。

さて、皆さんが入学した滋賀医科大学は、1974年に設立され、昨年開学40周年を祝いました。わが国の医学部の中では若い方の大学ですが、医科大学という特色を活かし、新しい医学教育・看護学教育によって全人的医療を行う信頼される医療人を育成し、独自の研究によって医学・看護学と医療の発展に貢献しています。また、滋賀県で唯一の医学部として、地域医療の中で中心的な役割を果たす卒業生が増えています。

学部教育の目的は、医学科では、医学・医療の進歩に対応し、国際水準の臨床能力と優れた人間性を備えた医師・医学研究者を育成すること、看護学科では、高い専門知識と卓越した技術をもって保健医療分野で

活躍できる看護師、助産師、保健師などを育成することです。

本学医学科のカリキュラムは、基礎学、すなわち教養科目に始まり、その後医学の専門科目を学習します。基礎学課程では、医学の基礎となる生物学、物理学、化学、数学などの基礎生命科学と、哲学、倫理学、歴史学や外国語からなる基礎人間科学を学びます。これらの科目は、医学の専門科目を学ぶための基礎となるとともに、人文科学、社会科学によって人間としての教養や倫理観、広い視野を身につけるためのものです。看護学科では、基礎学に対応する科目を「人間と環境」、「人間と人間の関係」、「人間の生命活動」として、一般教養科目、外国語、医学生命科学入門などを学習します。

医学科、看護学科とも、2年生から基礎医学または基礎看護学の学習が始まり、そのあと、臨床医学、臨床看護学の各科目を履修し、臨床実習を行います。医学・看護学ともに知識の体系は積み重ねが大事ですので、両学科とも、段階的に専門知識と臨床能力を獲得できるようにカリキュラムが構成されています。皆さんは、各科目を着実に修めて進級していくように心がけてください。

医学、看護学ともに、大学の課程は、これまでの学問の歴史と進歩の中で蓄積された知識や技術を伝授するという重要な意味がありますが、学問の体系は膨大で、その内容は日々新しくまた深くなっていきます。その意味で、大学で教えることのできる知識は将来の基礎となる基盤的な部分でしかありません。重要なことは、その上にいかに自ら能動的に学ぶかであります。したがって、大学で求められることは、単に教えられた知識を覚えることではなく、それをもとにさらに深く学習し、自ら探求し考える力を養う習慣をつけることです。ゲーテも、「科学は、芸術と同じように、学ぶことのできる部分、伝えることのできる部分と、もう一つは、伝えることも学ぶこともできない部分とからなっている」と述べています。こうした伝えることも学ぶこともできないことこそが、皆さん一人一人の

個性と人間性を形作る真の知識になり教養になるのです。その意味で、大学生活の4年間または6年間の過ごし方は大変重要であります。大学時代には、ぜひ多くの本を読み、よい友人を作り、スポーツをして、芸術や自然にも親しんでください。皆さんが学生時代を過ごすこの滋賀の地は、日本最大の湖である琵琶湖をはじめ、西に比叡山や比良山系、東には伊吹山や賤ヶ岳などの名山があり、雄大な近江平野と琵琶湖周辺には数々の歴史遺産、仏教や古典にゆかりの深い寺社や名跡がたくさんあります。学業の合間に、こうした滋賀の自然や文化にもぜひ触れてください。

滋賀医科大学には、医学生・看護学生のための地域「里親」「プチ里親」という、全国でもユニークな制度があります。これは、滋賀県での医療活動に関心があるという学生さんを対象に、地域で医師や看護師として活躍しておられる方々が「里親」となり、また、滋賀医科大学の患者さんや地域住民の方々が「プチ里親」となって、学生の相談相手になってくださる制度です。その中で、学生が滋賀県内の地域を訪問して、里親、プチ里親や地域住民の皆さんと交流することにより、地域の医療の現状を知り地域理解を深めることができるのです。このプログラムは、里親、プチ里親の方々と学生の双方に大変好評で、文部科学省の学生支援教育プログラムの支援も受けてきました。こうしたユニークな機会も是非活用していただきたいと思います。

次に、本日、大学院では、博士課程と修士課程へ併せて42名の皆さんを迎えました。この中には、9名の外国人の方もおられます。大学院の数期間は、自らの関心に従って自由に考えて発想し、難しい課題の解明を目指して研究に集中できる大変貴重な時間であり、一定期間、一つのテーマに集中して努力した体験、そしてその間に身につけた研究者としての物の考え方、すなわちリサーチマインドは、将来、研究者になっても臨床家になっても必ずや役に立ちます。しかし、研究はいつも順調に進むとは限りません。むしろ、うまく行かないことや失敗が多いのが研究の常であります。そのような過程を経てこそ、研究成果に到達したときに大きな喜びを味わうことができるのです。多くの優れた研究者が、研究における努力と情熱の重要性を述べています。前立腺癌のホルモン療法の研究で1966年にノーベル生理学・医学賞を受賞したチャールズ・ハギンズ博士は、創造的な研究に重要な要素として3つのH (Head, Hand, Heart) を挙げています。Head は頭を使って勉強し考えること、Hand は骨身を惜しまず働くこと、そしてHeart は強い情熱を持つこと、であります。ハギンズ自身、いつまでも研究

に対する情熱を失わず、70歳まで週7日間働き、時間を見つけては研究室で実験を続けたとのことであり、一昨年ノーベル賞を受賞した山中伸弥博士も、米国留学中に上司から言われた“vision and hard work”（ビジョンを持ち一所懸命働くこと）という言葉葉を研究生生活の指針にしていると述べています。研究は、苦難が多く競争も激しい世界ですが、皆さんの努力がすばらしい研究成果として実を結ぶことを心から願っています。

いま、医学と医療、看護学は大きく進歩し、新しい診断技術が考案され、また、以前は不治とされた病気にも効果のある新しい薬剤などが開発されています。また、外科手術の進歩にも目覚ましいものがあります。今から丁度1週間後の4月11～13日の3日間、「第29回日本医学会総会 2015 関西」が京都を中心に開催されます。日本医学会総会は4年に1度開かれる、わが国で最大の医学の集会ですが、4年前は東日本大震災のため中止になったので、今回は実質的に8年ぶりの開催となります。今回の総会のサブタイトルは「医学と医療の革新を目指して—健康社会を共に生きるきずなの構築—」であり、最新の医学研究のトピックス、これからの少子高齢化社会における医療制度、終末期医療、医療と社会との関わり、などについて、幅広い講演やシンポジウムが予定されています。滋賀医科大学もこの医学会総会の主務機関の大学の一つで、本学の多くの先生方が医学会総会の運営に関わり、講演やシンポジウムで研究成果を発表されます。また、関連の医学史展や「医師たちのブラックジャック展」なども京都市内で既に開催中です。この日本医学会総会は、学部学生は無料で参加できますし、最終日の閉会式と記念講演は市民にも公開されます。最近の医学・医療の進歩と転換期の医療について知るよい機会ですので、時間があれば是非いくつかの催しに参加されることをお勧めします。

皆さんは、これから専門分野の学習に励んで、医師・看護師等あるいは研究者として働くためのしっかりとした実力を身につけるわけですが、学生時代のうちに様々な体験をして、自らの人間としての幅を広げるとともに、人間や生命の尊厳について深く考え理解を深めてください。滋賀医科大学と本学の同窓会「湖医会」は、新たに本学のメンバーとなられた皆さんの大学生活を全面的に応援します。皆さんの学生生活、大学院生活が充実した楽しいものになることを祈念して、歓迎とお祝いの言葉といたします。

本日は、まことにおめでとうございます。

平成 27 年 4 月 3 日

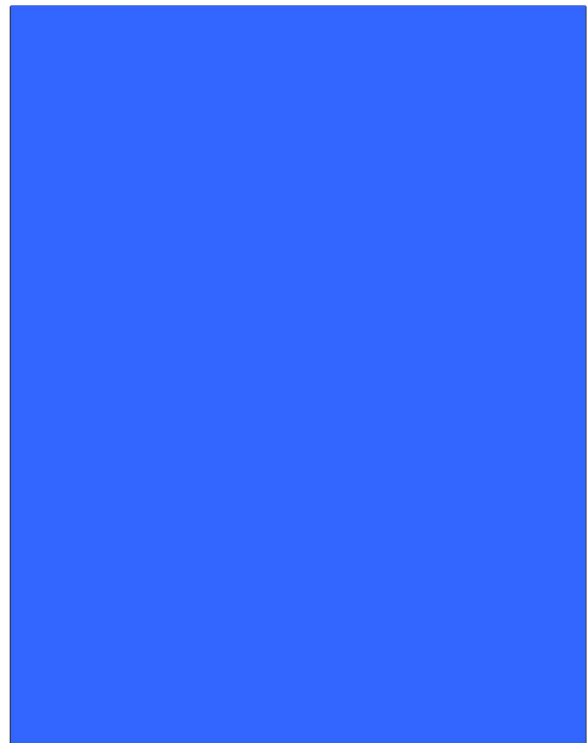
医 学 科 新 入 生



■医学科 A クラス



■医学科 B クラス



■医学科出身校所在地都道府県別入学者数

| 都道府県 | 男 | 女 | 小計 |
|------|----|---|----|
| 埼 玉 | 1 | 0 | 1 |
| 千 葉 | 1 | 0 | 1 |
| 東 京 | 1 | 2 | 3 |
| 長 野 | 1 | 0 | 1 |
| 愛 知 | 3 | 0 | 3 |
| 滋 賀 | 12 | 8 | 20 |

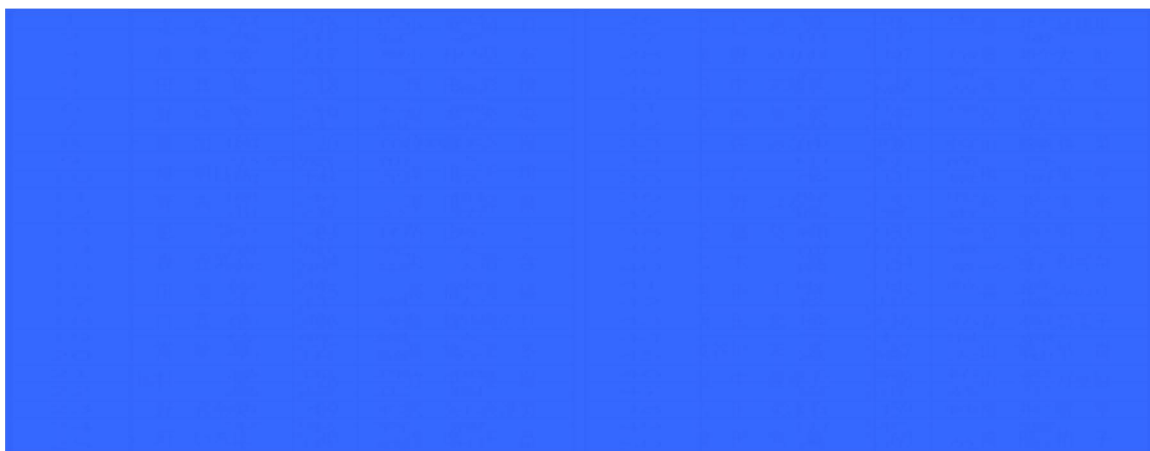
| 都道府県 | 男 | 女 | 小計 |
|-------|----|----|----|
| 京 都 | 18 | 10 | 28 |
| 大 阪 | 15 | 7 | 22 |
| 兵 庫 | 6 | 2 | 8 |
| 奈 良 | 6 | 1 | 7 |
| 和 歌 山 | 1 | 0 | 1 |
| 鳥 取 | 0 | 1 | 1 |

| 都道府県 | 男 | 女 | 小計 |
|------|----|----|-----|
| 広 島 | 1 | 0 | 1 |
| 徳 島 | 0 | 1 | 1 |
| 福 岡 | 1 | 0 | 1 |
| 高卒認定 | 1 | 0 | 1 |
| 合 計 | 68 | 32 | 100 |

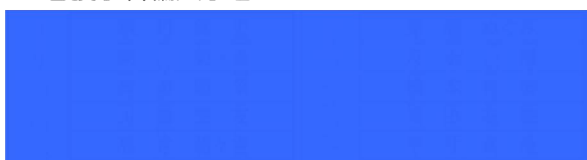
看護学科新入生



■看護学科



■看護学科編入学者



■看護学科出身校所在地都道府県別入学者数

(第1年次入学者)

| 都道府県 | 男 | 女 | 小計 |
|------|---|----|----|
| 岐阜 | 0 | 2 | 2 |
| 愛知 | 0 | 1 | 1 |
| 滋賀 | 1 | 27 | 28 |
| 京都 | 0 | 14 | 14 |
| 大阪 | 0 | 8 | 8 |
| 兵庫 | 0 | 3 | 3 |
| 岡山 | 0 | 2 | 2 |
| 山口 | 0 | 1 | 1 |
| 徳島 | 0 | 1 | 1 |
| 合計 | 1 | 59 | 60 |

(第3年次編入学者)

| 都道府県 | 男 | 女 | 小計 |
|------|---|---|----|
| 山形 | 0 | 1 | 1 |
| 埼玉 | 0 | 1 | 1 |
| 滋賀 | 1 | 2 | 3 |
| 京都 | 0 | 2 | 2 |
| 大阪 | 0 | 3 | 3 |
| 合計 | 1 | 9 | 10 |

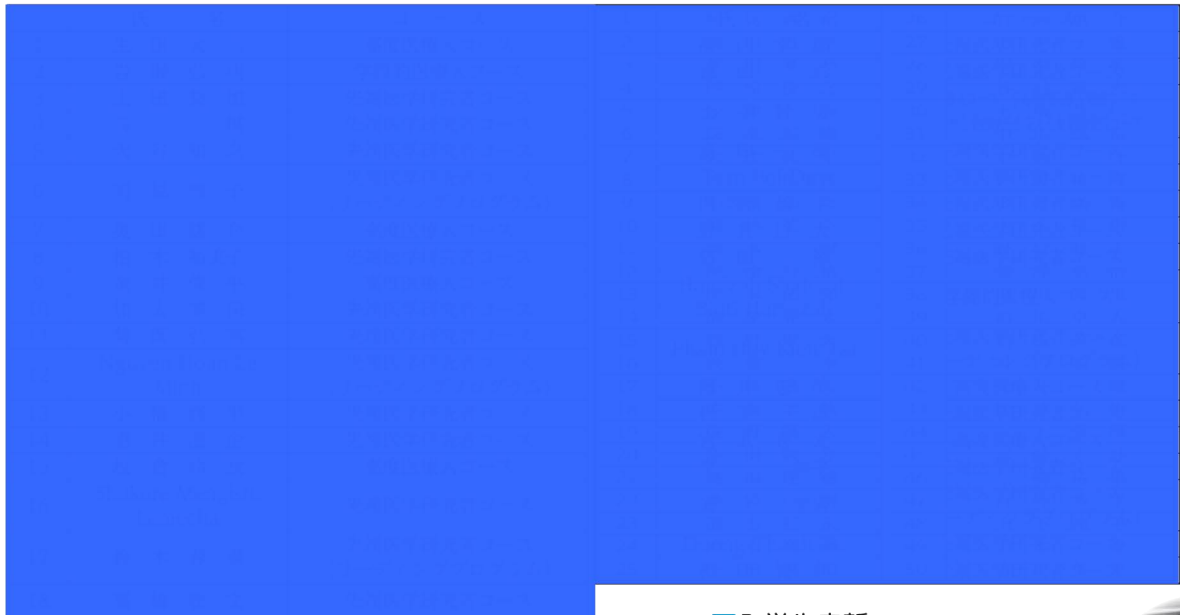


大 学 院 医 学 系 研 究 科

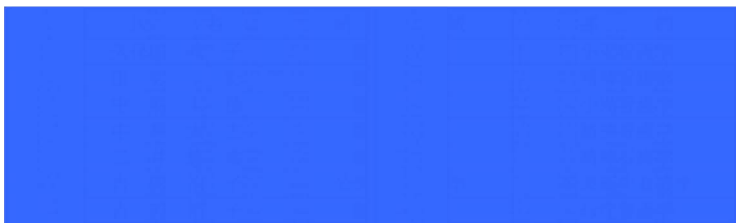
平成27年度 滋賀医科大学入学宣誓式



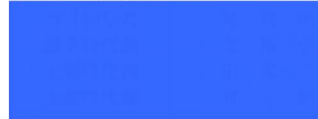
■博士課程入学者



■修士課程入学者



■入学生宣誓



■在学生歓迎の言葉



新任教員紹介

Newly-appointed
teacher introduction

耳鼻咽喉科学講座

准教授 大脇 成広



2015年3月1日付で、耳鼻咽喉科学講座准教授を拝命いたしました大脇成広（おおわきしげひろ）です。よろしくお願いします。私は1988年に滋賀医科大学に入学しましたので医学部14期生にあたります。京都で生まれ育ちましたが、滋賀県は隣県でありながら子供のころ膳所公園に魚釣りに来たことや小学校の遠足で安土城跡や彦根城に行った以外訪れたことがなく、近くて遠い存在でした。縁あって滋賀医科大学に入学し、卒業後耳鼻咽喉科に入局して以降も滋賀医大と滋賀県下の病院にずっと勤務してきましたので、京都より滋賀での生活の方が長くなり、今では身も心もすっかり滋賀県民です。

滋賀医大に入学当時、新設医大出身者は卒後どのようなキャリアを歩むのかまだわからず、勤め先がないだろう、大学にいてもポストがないだろうなど将来に否定的なことばかり耳にしていました。それ故卒業時に京都へ帰ることも考えましたが、母校に愛着もありそのまま滋賀医大に残り、無我夢中で仕事をつづけ20数年があっという間に経ち、髪の毛は幸い薄くなっていませんが、かなり白くなり、腹回りに少々貫録を漂わせるようになって今に至ります。その間に年をとったのは自分だけではなく、新設医大の滋賀医大もすでに開学40周年を迎え、今年は35期生が医師としてキャリアをスタートさせ、41期生が入学してきました。私が学生だった頃は存在すらなかった看護学科も今年の入学生はすでに22期生だそうです。今では卒業生は全国津々浦々で活躍され、滋賀県下の病院も学外実習に行けばどこでも滋賀医大出身の先生がい

て親切に指導してくださると思います。滋賀医大で学び、卒業するとどんな将来があるのか、昔と違い沢山の見本となる先輩がいます。そんな見本のなかで一番身近な存在が私のような滋賀医大に勤務する卒業生だと思います。講義や実習を通してこんな医師になりたい、こんな研究者になりたい、学生を指導するこんな教官になりたいと、みなさんの目標になれば大変うれしく思います。

2006年以降、滋賀医大に腰を据え、7月からは10年目になりますが、正直言いますと、私は勉学も私生活もあまりぱっとしない学生でしたので、まさか大学病院で教官になって10年もの期間、学生実習や講義をやり続けるとは思ってもみませんでした。最初は教職というものに戸惑いばかりでしたが、どうしたら興味を持ってくれるか毎年試行錯誤しながら講義や実習指導をしています。今回耳鼻咽喉科准教授に昇任したことをきっかけにみなさんの良い見本になれるよう、気持ちを引き締めてもう一頑張りしたいと思っています。

最後に、あまり耳鼻咽喉科医としての仕事ぶりは書きませんが、しっかりやっていますので、実習のときにでも気軽に声をかけてください。

経歴

1994年 3月 滋賀医科大学 医学部 卒業
1994年 5月 滋賀医科大学 医学部附属病院 医員(研修医)
1995年 10月 市立長浜病院 耳鼻咽喉科 医員
1999年 4月 草津総合病院 耳鼻咽喉科 医長
2001年 6月 滋賀医科大学 医学部 助手
2004年 6月 公立甲賀病院 耳鼻咽喉科 医長
2006年 7月 滋賀医科大学 医学部附属病院 耳鼻咽喉科 助手
2007年 4月 同上 助教

2009年 5月 滋賀医科大学 医学部附属病院 耳鼻咽喉科 講師
2015年 3月 滋賀医科大学 医学部 耳鼻咽喉科学講座 准教授

社会医学講座(医療統計学部門)

准教授 田中 佐智子



2015年4月1日付けで、社会医学講座医療統計学部門の准教授に就任いたしました。本誌をお借りしてご挨拶申し上げます。

私の専門は生物統計学であり、生物統計手法の開発と疫学研究の統計解析に関わっています。

私は東京大学薬学部在学中に、臨床研究に関わりたいと強く思っておりましたが、当時ほとんどの講座で基礎研究をテーマとすることが必須となっていたため、医学部健康科学・看護学専攻生物統計学教室の修士課程に進学しました。この専攻は、現在では公衆衛生大学院を構成し、多くの分野の学生が入学していますが、当時他学部からの修士課程への入学がほとんどありませんでした。不器用ながら研究を続けるうちに、より深く勉強したい気持ちが強くなり、博士課程まで進学し、将来は疫学分野の理論統計を研究していきたいと考えるようになりました。

博士課程修了後、国立がん研究センターのがん情報統計部に勤務し、がん疫学分野の記述疫学、分析疫学の手法の実践、開発に従事しました。ここで、患者さんにいかに臨床研究の結果を適確な情報として提供するか、がん死亡を減らすためにどのような予防政策の立案と評価が必要か、といったプロジェクトに関わることで、公衆衛生に貢献する意識を学ぶことができました。

臨床研究はいまや、臨床家に加え、複数の専門家がチームとして実施する時代となっています。より良い問題の解決のためには、チームの一員として研究計画の段階から議論を重ねることが重要だと考えていま

す。滋賀医科大学の公衆衛生学部門では重要な循環器疫学のプロジェクトが実施されています。これまでがん分野の疫学に関わってきましたが、循環器分野は経験が浅く、臨床研究のチームの一員として参加させて頂くために、まだ学ぶべき点が多いと感じています。

私事ですが、今年は博士課程を修了して10年目、結婚して10年目のとても区切りが良い年になりました。公私共に、新たなスタートを切る気持ちで、頑張りたいと思っています。非常に微力ではありますが、医療統計学部門での研究教育活動を通して、疫学分野への医療統計学の応用と普及、医療統計学の発展に寄与したいと願っております。どうぞ宜しくお願いいたします。

経歴

2000年 3月 東京大学 薬学部 卒業
2002年 3月 東京大学大学院 医学研究科健康科学・看護学専攻修士課程修了
2005年 3月 東京大学大学院 医学研究科健康科学・看護学専攻博士課程修了
2005年 4月 国立がんセンターがん予防検診研究センターリサーチレジデント
2007年 4月 東京理科大学 工学部経営工学科 助教

2009年 11月 京都大学附属病院臨床研究開発センター 特定助教
2014年 4月 京都大学大学院 医学研究科社会健康医学専攻薬剤疫学分野 特定講師
2015年 4月 滋賀医科大学 医学部社会医学講座(医療統計学部門) 准教授

精神医学講座

准教授 栗山 健一



2015年4月1日付で、精神医学講座准教授を拝命いたしました。東京で生まれ育ち、茨城県の筑波大学を卒業後に東京医科歯科大学の精神神経科に入局しました。入局当初は精神科臨床に没頭しておりましたが、次第に精神疾患の病態解明が立ち遅れていることに限界を感じるようになり、国立精神・神経医療研究センターで精神疾患研究をメインに行うスタイルに移行しました。同センターでは、現日本大学精神医学教室教授で当時は精神生理研究部の部長でいらっしやられた内山真先生に精神医学と睡眠医学研究のご指導をいただき、生体概日リズムがヒトの認知機能に及ぼす影響を研究し学位を取得いたしました。その後、当時ホットトピックスであった睡眠中の記憶強化過程の研究に興味を深め、ハーバード医科大学精神科のR. Stickgold博士の研究室に留学しました。2007年からは再び国立精神・神経医療研究センターで金吉晴先生、三島和夫先生のご指導のもと、不安障害、PTSD(Posttraumatic Stress Disorder)の発症・悪化への睡眠障害の関与をメインテーマとし研究、臨床を両立させながら本年3月まで活動してまいりました。

本学では、これまでの研究で得られた、睡眠や概日制御機構と記憶機能に及ぼすメカニズムに関する知見を発展させ、不安・ストレス関連障害の治療ファーストラインである認知行動療法のブーストアップを目指した手法の開発研究を遂行すべく準備しております。また、欧米で精力的に行われている、うつ病における磁気刺激療法の効果促進法開発や、国際的なトピック

である、睡眠障害が認知症の病態に及ぼす影響に関する研究も計画しております。そして、これも近年の国際的課題の一つですが、うつや不眠が循環器疾患、内分泌代謝疾患等に及ぼす影響もテーマとして取り上げていきたいと思っております。これらの研究成果は、学際的な価値はもとより本学の重要なミッションである滋賀の地域医療の発展に直接的に寄与する可能性を秘めています。講座をまたぎ多くの先生方のご指導・ご協力をいただきますようどうぞよろしくお願いいたします。

最後に、近年MD研究者の減少が国際的に進んでおり我が国も例外ではありません。臨床医が不足していることや専門医制度の厳格化等の事情もあり、医学生およびフレッシュマンの先生方に医学研究を志す方が減っているように見受けられます。研究トレーニングを受け、科学研究者の視点を学ぶことは精神科医師のみならずあらゆる臨床医にとって、とても有益であると思っております。そして、国際的に手薄であるトランスレーショナルリサーチを推し進める上でMD研究者が重要な役割を担うことは言うまでもありません。学生さんや研修医の先生方への指導を通じて、質の高い科学的視点を持った臨床医の育成に貢献することができましたら大変幸せに思います。とはいえまだまだ未熟で微力でありますので、ミッション遂行の為に諸先生方のご指導・ご協力を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

経歴

1999年 3月 筑波大学 医学専門学群 卒業
1999年 4月 東京医科歯科大学 精神神経科 入局
東京医科歯科大学大学院 認知行動医学系精神行動医科学 入学
2001年 2月 国立精神・神経センター精神保健研究所 精神生理部 研究員
2003年 3月 東京医科歯科大学大学院 認知行動医学系精神行動医科学 修了

2003年 7月 Harvard Medical School Massachusetts Mental Health Center Neurophysiology 教室留学
2004年 2月 医療法人社団輔仁会 大宮厚生病院 医員
2007年 1月 国立精神・神経センター 精神保健研究所 成人精神保健部 室長
2015年 4月 滋賀医科大学 医学部 精神医学講座 准教授

臨床教育講座



教授 伊藤 俊之

2015年4月1日付けで臨床教育講座の教授を拝命致しました。職責の重大さに身の引き締まる思いであります。

私は神戸大学医学部を卒業後、聖路加国際病院で内科レジデントとしてスーパーローテート研修を受けました。医師としての第一歩を踏み出す最も重要な時期に、いわゆる屋根瓦式教育を受けられたこと、多くの良き同僚や師匠と出会えたことは私の大切な財産となっています。

内科チーフレジデントを半年務めた後に、専門領域として消化器内科を選択し、消化管内視鏡に没頭しました。折しも *Helicobacter pylori* (Hp) が上部消化管疾患を惹起することが知られ始めた時代で、内視鏡検査時に頻繁に遭遇する慢性胃炎の多くが Hp によるものであり、その程度や拮抗りに個人差があること、それが胃癌の発症と関連していることを不思議に思ったため、Hp 感染時の宿主免疫応答を大学院の研究テーマとしました。

学位取得後に臨床に戻り、当時最先端であった粘膜下層切開剥離術 (ESD) を国立がんセンターに習いに行き院内への導入にあたるなど、臨床中心の生活を送りました。新たな医師臨床研修制度が開始された頃、京大病院で「総合臨床教育・研修センター」立ち上げの機会を頂戴し、大学病院内外での初期臨床研修体制の構築・維持や、大学での臨床教育に携わる中で、大学における卒前から卒後に至る一貫した医学教育の重要性と、組織を運営するマネジメントの重要性を痛感いたしました。医師臨床研修制度に深く関わるうちに、

制度改革を含めた臨床教育マネジメントをより広い視野で見たいと考えるようになり、厚生労働省に移って、制度の運用と5年に一度の見直しを経験し、現在に至っております。

近年、我が国の医学教育は、卒前から卒後の様々な段階において、大きな変革の時期にきています。主なものとして、①卒前では、ECFMG 2023年問題で顕在化した「国際基準に対応した医学教育分野別認証評価」の受審、②卒後2年間の初期研修では、平成32年度実施予定の医師臨床研修制度の見直し（到達目標と評価方法の新規策定）、③卒後3年目以降の後期研修では、平成29年度から開始される新たな専門医制度があります。教育機関である大学は、これらのいずれに対しても組織的な対応が求められます。もとより微力ではございますが、卒前から卒後の一貫性を強く意識しつつ、滋賀医科大学における医学教育の更なる発展に貢献したいと考えております。今後とも皆様方のご指導とご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

経歴

1991年 3月 神戸大学 医学部医学科 卒業
1991年 4月 聖路加国際病院 内科レジデント
1994年 4月 同 内科チーフレジデント
1994年 10月 同 消化器内科 医員
1996年 4月 京都大学大学院 医学研究科 博士課程(内科系専攻)
2000年 3月 同 修了
2000年 4月 京都大学 医学部附属病院 消化器内科 医員
2001年 10月 聖路加国際病院 消化器内科 医員

2006年 7月 京都大学 医学部附属病院 総合臨床教育・研修センター 講師
2010年 6月 厚生労働省関東信越厚生局 健康福祉部 医事課 臨床研修審査専門官
2011年 9月 国立国際医療研究センター 臨床研究センター 臨床研究支援部長
2011年 10月 厚生労働省関東信越厚生局 健康福祉部 医事課 臨床研修審査専門員(非常勤)
2015年 4月 滋賀医科大学 医学部医学科 臨床教育講座 教授

基礎看護学講座

准教授 本田 可奈子



2015年4月1日付で基礎看護学講座の准教授を拝命いたしました。私は京都大学医療技術短期大学部を卒業後、そのまま附属病院で5年間勤務した後、大阪府三島救命救急センターに勤務いたしました。そこでの10年の経験と様々な方との出会いが看護師としての私を成長させてくれたと感じております。

大阪府三島救命救急センターは国内でも数少ない自己完結型の独立型の救命救急センターで、専門医が中心となり高度医療の施設ながら人間の自然治癒力に注目した低侵襲をめざした医療を実践していました。救急医療はどうしても初療の派手なところが取り沙汰されますが、患者さんにとっては命が助かったと喜んでいるのも一時のことであり、その後は社会復帰に向けて長く苦しい時間を乗り越えていかなければなりません。それはまさに看護にとって患者さんの生活と向き合い、生活を援助していくことであり、私は看護の原点である「生活者である人間に関わる」ということを、救急医療を通して学べたと感じています。とはいえ、重症者の多い救急の現場で働くことは激務でストレスフルであり、看護師の退職が多かったことも否定できません。私は当時現場教育の役割も担っていたので、「自分達が行っているのは本当に看護なのか」など看護への実感をもてない若い看護師の話聞く機会も多く、救急の看護がなぜ認識されないのかと考えるようになりました。それがやがて目に見えない現象を明らかにするという質的研究への関心へとつながり、2004年3月に本学において『三次救急医療施設における看護実践の内容』で修士課程を修了させていただきました。それが私の研究者としての第一歩です。そ

の当時は今12歳になる子どもがおなかにおいて、いろいろな方からたくさんのサポートを頂き、多くの人に支えられていることを実感しました。

時は流れあれから11年、臨床現場を離れてからは15年になります。修士課程を修了後に研究者・教育者としてスタートした滋賀県立大学での9年間、また、大阪府立大学博士後期課程での4年間に多くの先生方、先輩方から教育者として学生に対する考え方や研究で重要な一貫性と根拠、クリティークの重要性など基盤となるものを与えて頂きました。また、前任校である大垣女子短期大学では新しい大学をつくることを通して看護学の高等教育を考える機会をいただきました。そのようなプロセスを経て今また母校であるこちらに着任させていただきましたことに人のご縁を感じております。本学では1・2年生を主に担当する基礎看護学講座に籍をおいています。この基礎看護学のお仕事を頂いたことは看護の原点に立ち返る意味で私にとって人生の節目になると感じます。また、研究においては、生体反応を用いた学習評価方法に関心があり、ICTの教育活用がすすむなか、時代に即した教育の開発ができればと思っています。これからは未熟ながら今まで諸先輩方同僚の方より与えていただいたたくさんのスキルをいかして滋賀で学ぶ若い方たちに看護を伝えることや、臨床の看護職の方たちに貢献できるように日々邁進し、精進していきたいと思います。

これからもどうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

経歴

1984年 3月 京都大学 医療技術短期大学部 看護学科卒業
1984年 4月 京都大学 医学部附属病院 看護師
1989年 6月 大阪府三島救命救急センター 看護師
2004年 3月 滋賀医科大学大学院 医学系研究科修士課程 看護学専攻修了(看護学修士)
2004年 4月 滋賀県立大学 人間看護学部 基礎看護学講座 助手
2006年 9月 滋賀県立大学 人間看護学部 地域交流看護実践研究センター感染管理認定看護師教育課程 主任教員

2007年 4月 滋賀県立大学 人間看護学部 基礎看護学講座 助教
2008年 4月 滋賀県立大学 人間看護学部 成熟看護学講座 助教
2011年 3月 大阪府立大学大学院 看護学研究科博士後期課程修了(看護学博士)
2013年 4月 大垣女子短期大学 看護学科 成人看護学領域 准教授
2015年 4月 滋賀医科大学 医学部看護学科 基礎看護学講座 准教授

光学医療診療部

准教授 杉本 光繁



このたび 2015 年 4 月 1 日付けで、光学医療診療部の准教授を拝命致しました。私は、滋賀医科大学医学部の 15 期生であり、在学中は陸上競技部、バドミントン部に在籍し、多くの良き先輩や後輩、友人に囲まれ、恵まれた大学生活を過ごしてきました。

1995 年に滋賀医科大学を卒業した後は出身県である静岡県の浜松医科大学の第一内科に入局し、消化器内科医、内視鏡医として日常臨床に携わってきました。2002 年に浜松医科大学の大学院に入学した後はヘリコバクターピロリ菌、逆流性食道炎、消化性潰瘍、胃癌などの酸関連上部消化管疾患の基礎研究や臨床研究を行いながら、酸分泌抑制剤の薬理学的観点を考慮した最適化について検討し、臨床の現場に還元すべくトランスレーショナルリサーチを行ってきました。今後も臨床の現場に根ざした消化器内科医、内視鏡医として従事していきたいと考えていたところ、このたび出身大学である滋賀医科大学の光学医療診療部の准教授を拝命致しましたことは、運命的なことと感じながら、改めてその責務の重さを実感しています。

日々医療技術が進歩していく中で、光学医療診療部が関与する内視鏡部門も同様に日進月歩で発展しつつあります。内視鏡機器の性能の向上はもとより、拡大内視鏡や狭帯域光観察 (NBI) を駆使することで、今まで詳細な観察ができなかった微小癌や範囲診断ができるようになっていきます。また、近年消化管の早期癌の治療の主体となっている内視鏡的粘膜下層剥離術の確立は内視鏡治療の進歩の最たるものです。今後は、他部門との協力体制を構築しながら、地域医療との架け

橋としての大学病院の使命を果たすことが、私の使命と考えています。

また、臨床上の問題点や疑問点を題材に基礎研究から臨床研究まで幅広く行い、本学、あるいは滋賀県内の施設での多施設共同研究を積極的に行うことにより、多くのエビデンスを世界へ発信していくような研究を行いたいと考えています。光学医療診療部部長であり、内科学講座（消化器・血液）の安藤朗教授のご指導のもと、今後も光学医療診療部の体制面、運用面などで直面するであろう様々な課題を解決しながら奮闘努力をする所存です。最後になりましたが、皆様方のご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

経歴

1995年 3月 滋賀医科大学 医学部医学科 卒業
 1995年 5月 浜松医科大学 第一内科 研修医
 1996年 6月 聖隷浜松病院 消化器内科
 2001年 6月 浜松医科大学 第一内科 医員
 2002年 4月 浜松医科大学 医学研究科(大学院)入学
 2006年 4月 浜松医科大学 内科学第一講座 助教
 2008年 1月 ベイラー医科大学 消化器内科 研究員(米国)
 2009年 10月 浜松医科大学 臨床研究管理センター 特任助教

2011年 4月 浜松医科大学 第一内科診療科群 助教
 2015年 4月 滋賀医科大学 医学部附属病院光学医療診療部 准教授

臨床研究開発センター

教授 久津見 弘



2015年4月1日付で臨床研究開発センター センター長・教授を拝命致しました。

折しも再生医療新法の施行、倫理指針の改定、臨床研究中核病院の承認制度の開始と、臨床研究を取り巻く環境が大きく変化する中での拝命であり、課せられた責務の重さに身の引き締まる思いです。

私は福井医科大学を1987年に卒業し、JR大阪鉄道病院、宇治の第二岡本総合病院、明石市立市民病院、京都第一赤十字病院で消化器内科の臨床医として勤務、その間に京都府立医大で活性酸素産生機構に関する研究で学位を取得しました。その後、神戸大学消化器内科に異動し診療・教育・研究に従事しました。消化器内科でも特に、胆膵領域の内視鏡診断・治療を専門とし、MR内視鏡研究開発、レーザーの臨床応用、胆膵疾患の臨床疫学、乳頭括約筋機能不全の診断法、ERCP後膵炎の予防法等の研究に携わりました。そのような中、新規医療を臨床現場で広く使えるようにするためには、薬事規制をクリアする必要があることを知りました。そんな折、独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)に勤務する機会に恵まれ、2年4か月の間、医薬品・医療機器・体外診断薬の審査ならびに安全対策業務に従事しました。

PMDAという言葉をお聞きになる方もおられると思いますが、PMDAとは米国の食品医薬品局(FDA)に相当する機関です。私はそこで、医薬品・医療機器・体外診断薬に関わる治験計画書の倫理面、科学面の審査、申請品目の臨床上の位置づけ、臨床データの評価、有害事象報告の内容評価、開発段階の相談等の薬事規制に関わる多くの業務を経験し、規制当局、企業、アカデミアそれぞれの立場と考え方を理解することができ、それぞれの関係者との繋がりができ、今では私にとって大きな財産となっています。

さて、臨床研究に関して、2015年4月から従来の「疫学研究に関する倫理指針」と「臨床研究に関する倫理指針」を統合した「人を対象とする医学研究に関する倫理指針(統合指針)」が施行されました。この中では「研究の信頼性確保」の章が新たに設けられ、「利益相反の管理」「研究に係る資料及び情報等の保管」「モニタリング」「監査」についての規定が示されています。これには、皆さんもご存じのように日本の臨床研究の信頼性を損ねるような事件が相次ぎ明るみに出たことが背景にあります。一方で、質の高い臨床研究を推進するため、国際水準の臨床研究や医師主導治験の中心的な役割を担う医療機関として「医療法に基づく臨床研究中核病院」の承認制度が同じく4月から開始されています。それに加え、昨年11月に施行された「再生医療等安全確保法」の猶予期間が、本年5月に終了し実際に適応されることになり、冒頭に触れたようにまさしく今、臨床研究を取り巻く環境が大きく変化しています。

臨床研究の目的は、疾病の予防・診断・治療方法の改善、疾患の原因および病態の解明、そして現行の診断・治療方法の再検討です。近年の科学技術の進展をいち早く医療現場に還元するためには、質の高い臨床研究を数多く実施しエビデンスを創出する必要があります。今回の制度改革は、臨床研究を行う側にとっては大きな負担となるものですが、我々の研究成果が世界中で引用され、迅速に医療現場に還元できる好循環への転機ではないでしょうか。

臨床研究開発センターが、研究者の負担軽減と信頼性の担保された医療エビデンス創出に貢献できるよう頑張りたいと思います。皆様のご理解ご協力をよろしくお願い致します。

経歴

| | | | |
|-----------|---------------------------------------|-----------|--|
| 1987年 3月 | 福井医科大学 医学部 卒業 | 2009年 4月 | 神戸大学大学院 医学研究科地域社会医学健康科学講座 地域医療ネットワーク学分野 特命教授 |
| 1987年 6月 | JR 大阪鉄道病院 研修医 | 2010年 7月 | 独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA) スペシャリスト(臨床医学担当) |
| 1989年 4月 | JR 大阪鉄道病院 消化器内科 修練医 | 2012年 11月 | 神戸大学大学院医学研究科内科学講座消化器内科学分野 消化器先端医療開発部門 特命教授 |
| 1990年 5月 | 医療法人第二岡本総合病院 消化器内科 医師 | 2015年 4月 | 滋賀医科大学医学部附属病院臨床研究開発センター センター長・教授 |
| 1991年 5月 | 明石市立市民病院 消化器内科 医師 | | |
| 1996年 7月 | 京都第一赤十字病院 消化器科 医師 | | |
| 2000年 7月 | 京都第一赤十字病院 消化器科 副部長 | | |
| 2005年 10月 | 神戸大学 医学部附属医学医療国際交流センター難治性疾患病態解析分野 助教授 | | |
| 2007年 4月 | 神戸大学大学院 医学研究科内科学講座 消化器内科学分野 准教授 | | |

キャンパス
ライフCampus
life

平成27年度 新入生宿泊研修

4月7・8日の両日、休暇村近江八幡等において、平成27年度の新入生宿泊研修を実施しました。研修には、医学科、看護学科の新入生および引率教職員の総勢約190名が参加しました。

初日は、飯ごう炊さんから始まり、「滋賀と滋賀医大の魅力」「里親学生支援について」「保健管理センターについて」と題した講演会とクラス別懇談会を実施しました。2日目は、「人権学習」「学生のリスクマネジメントについて」「薬害と煙害等について」と題した講演会の終了後、陶芸体験を行いました。

研修を通して新入生は仲間との親睦を深め、滋賀医科大学の学生として自覚を持つことができました。



新入生宿泊研修に参加して



僕は、京都で生まれてずっと京都で育ってきたのに滋賀医科大学に入学するまで、隣の滋賀県についてはほとんど何も知らなかった。僕にとって、滋賀県とは近くて遠い場所であったのだ。新入生宿泊研修は、これからお世話になる滋賀県について詳しく知ることができたよい機会となった。研修中、「滋賀県と滋賀医科大学の魅力」という講義を教授がしてくださったが、滋賀県についてほとんど知識のなかった僕にとって非常に面白いものであった。予想していたよりも、はるかに多くの魅力が滋賀県、そして滋賀医科大学にあることを知り、あらためてこの大学を選んでよかったと思った。

そして、この研修に参加して一番よかったことは、様々な背景を持った多くの人とたっぷりと話し合えたことだ。飯ごう炊さんでは、看護学科の人とも一緒に協力してカレーを作りながら、僕が知らなかった様々な話を聞けて非常に有意義な時間を過ごせた。少し大

医学科第1学年 小笠原 仙之

げさだといわれるかもしれないが、このように様々な人と協力して仲を深めた経験が、将来僕が医師として働くときに役に立つのではないかなと思う。医療を行うとき、医師だけでなく医療スタッフ全員が互いに意思疎通を図りながら協力していくことが、不可欠だからである。そして、夕食後には、これからともに医学を学んでいく人たちと部屋でたっぷりと話し合った。滋賀医科大学では、再受験の人たちも多く入学する。前の大学で学んできたこと、かつて働いていた職場での経験、なぜ再受験して医師を目指そうと思ったのか、などの話は僕にとってとても貴重なものであった。本当にこの研修は素晴らしい体験であった。





新入生宿泊研修に参加して

医学科第1学年 **三輪 祐果**

大学に入学してから一週間と経たないうちに始まった新入生宿泊研修。友達も少ない中での飯ごう炊さん、夜のフリータイムと、スケジュールを見る限り不安でいっぱいになりながら参加しました。バスの中では仲良くなりたての友人と会話が弾み、すぐに合宿場所・休暇村近江八幡に到着。班で集合したのち早速飯ごう炊さんをスタートしました。想像以上に煙たく苦戦しながらも、班員二人の多大なる尽力のもと、カレーが完成しました。心配していたお米の水加減もうまくいき、飯ごう炊さんならではの美味しいカレーを味わいました。その後は怒涛の講義ラッシュで、滋賀の魅力から医学生としての自覚を促すものまで多岐にわたりました。その後のクラス懇談では、初めて同じクラスの人全員の名前を聞くことができ、みんなの個性も垣間見え、とても楽しく過ごせました。夕飯のあとは夜のフリータイム！同室になった方とは落ち着いて話すことができました。その後、他の部屋に向いて医学科女子との交流を大いに深めました。出会って数日、しかし、これから6年間を共に過ごしていくであろう

人たちと、修学旅行のように枕を寄せ合って色々な話をしたのは、とてもいい思い出になりそうです。翌日は薬害や人権学習、リスクマネジメントについての講義のあと、作陶へ。慣れない手つきで苦戦しながらも、同じテーブルの友達と談笑しながらなんとか作品を完成させました。約一か月後に返却されるとのことで、今から楽しみです。

不安のうちに始まった宿泊研修でしたが、終わってみれば短く、名残惜しくバスを降りました。この研修を思い出として思い出すようになるころには、友人たちとの仲はさらに深まっているだろうな、自分も充実した理想の生活を送れているだろうか、そうだといいな、そんな風に今後について思いを馳せることができ、充実した大学生活への第一歩となった宿泊研修でした。



看護学科第1学年 **藤井 大地**



入学して間もなく新入生と編入生によるオリエンテーション研修が行われるということ

を知り私はとても不安な気持ちになりました。なぜかと言うと今年入学した看護学科の中で男は私一人だったからです。周りが研修のことを楽しそうに話しているのに、私は全くと言っていいほど楽しそうには思えませんでした。いざ、当日になってバスに乗り込んでも気持ちは沈んだままでした。はたしてこれからの大学生活はどうなるのか？そんな不安な気持ちで雨が降る悪天候な研修の一日目の朝を迎えました。しかし、近江八幡の休暇村に着いてすぐに行われる飯ごう炊さんで班員と協力をしてカレーを作っているうちにいつの間にか周りに馴染むことができ、楽しいと感ずることができました。できあがったカレーもとてもおいしかったです。外はすごく寒かったですけど。

午後からの講義ではいろんな講師の方から、ために

なるお話や地元民ですら知らなかった滋賀の魅力がきました。その後の懇談会での自己紹介では自分のことを認知してもらえようがんばりました。今年で一番がんばりました。夜には、医学科の人たちの集まる部屋に寄せていただきました。違う学科の所で不安ではありましたが、優しい人たちばかりだったのですぐに溶け込むことができ、久しぶりに心から笑うことができました。

二日目には作陶の体験がありました。職人の方のように上手いかず、使い道のよくわからない皿のようなものを作ってしまった。焼いている間に溶けてなくなってしまえ、という期待をしながら完成を楽しみ(?)に待ちます。

最初は不安しかありませんでした。しかし、終わってみるとあの時なぜあそこまで不安を感じていたのかわからないというほど楽しめました。これからの大学生活も今回のように充実し、有意義なものにしていきたいと改めて思いました。



新入生宿泊研修に参加して

看護学科第1学年 祝部 早紀

入学して間もないときに行われた新入生宿泊研修は話したことがない人が大半だったので、少しの不安と緊張とともに始まりました。しかし、バスが出発して隣の座席に座った友人と話しているうちに不安は吹っ飛んでこれからの2日間が楽しみになっていきました。

休暇村近江八幡に着いてまずしたことは飯ごう炊さんです。私はこの宿泊研修で医学科や編入生と仲良くなれる一番のイベントである、飯ごう炊さんをとっても楽しみにしていました。同じ班の人たちとわいわい言いながら、ときどき先生方が作っておられる様子を見たりアドバイスをもらったりしてするカレー作りはいつもの何倍もおもしろかったです。その後、講義をいくつか聞き、懇談会がありました。懇談会では看護学科全員の自己紹介があり、これから一緒に大学生活を過ごす人たちが個性豊かで楽しい人ばかりだということがわかりました。夜は部屋でゲームをしたりして医学科の人や編入生の友達ができて、夜遅くまで盛り上がりました。

2日目の午後は陶芸体験をしました。滅多にやらない

ことなのでいいものを作ろうと意気込んでやり始めました。しかし、考えていたより難しく思ったようにできずに悪戦苦闘しました。同じテーブルで陶芸をしていた友達と作品を見せ合ったりしているうちに楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいました。焼きあがったら誰が一番うまく作れたかまた見せ合いたいです。

この宿泊研修でこれから自分が目指す医療人になるために大学生活をどのように過ごすか目標ができたと思います。今回得られた様々なことを糧にして有意義な4年間を過ごしたいです。



看護学科第3年次編入生 橋本 有加

桜が咲き始めた文化ゾーンを歩き、緊張の面持ちで滋賀医科大学の西門をくぐった入学式。めまぐるしく過ぎる時間の中で「新入生宿泊研修」を迎え、溢れんばかりの不安と少しばかりの期待が混在する気持ちを胸に、バスに乗り込みました。私は社会人編入生であり、新一年生や専門学校を介している編入生より年齢を重ねているため、親しい交流関係が築けるかどうか、ずっと気がかりでした。しかし、現地に到着し、飯ごう炊さんの準備に取り掛かる頃には、新入生とすでにいくつか言葉を交わし、そこかしこで笑顔が見られていたように思います。連日雨が続き、花冷えの中で調理したカレーは思いのほか美味しく、こわばった身体と気持ちがほぐれていくのを感じました。

その後、行われたクラス別懇談会で学友の個性を知り、就寝時には同室者と一緒になって、学校に関する情報共有から自身の嗜好まで、たわいもない閑談をして夜を過ごしました。

イベントの間に挟まれる講義では、滋賀県の素晴らしさと、今後生活するうえで待ち受ける危険への予備

知識を学び、その後の作陶では才能光る作品をいくつもみることができました。

帰りのバス内では、うららかな日差しの中、心地よいバスの振動を体で感じ、自分がこれから過ごす環境を思いました。社会人として多忙な日常を過ごしていた時は、常に効率的に動けるよう努めていたため、四季折々の些細な変化にまで目を向けられていなかったように思います。今回の研修で、自然を五感で感じる、皆とささやかで穏やかな時間を過ごせたことで、自身の環境とのかかわり、人とのかかわりを見つめなおし、未熟な点は反省し、また、変化を感じ取る心の余裕を常に意識する必要性を実感しました。

勉学に関してだけでなく、大学での様々なイベントが自分の人間性を徐々に変化させていく予感を感じることができた研修でした。



第40回 浜松医科大学との交流会

去る5月15日・16日の2日間、本学において第40回浜松医科大学との交流会が行われました。

体育館での開会式には本学の塩田学長、堀池副学長他教職員と浜松医科大学の中村学長、小出理事他教職員の列席の下、あわせて600余名が参加しました。また期間中、両大学から総計で900名を超える学生の参加がありました。

交流会は心配されていた雨による影響も少なく、グラウンド、体育館、武道場等では熱戦が繰り広げられ、クリエイティブモチベーションセンターでは両大学の管弦楽団による合同演奏が行われました。グラウンドでの準硬式野球の対抗戦においては、初めに浜松医科大学の小出理事による始球式が執り行われました。

2日間の対戦成績は本学の11勝3敗2引き分けで、本学の総合優勝となり、優勝杯を勝ち取ることができました。また、これにより、通算成績は本学の20勝14敗6引き分けとなりました。

平成27年度 第40回 滋賀医科大学 浜松医科大学交流会 競技結果

| 種 目 | | 滋 賀 | | 浜 松 |
|----------|---|-----|---------|-----|
| 硬式庭球 | | × | 1 - 3 | ○ |
| 剣 道 | 男 | ○ | | × |
| | 女 | × | | ○ |
| 準硬式野球 | | ○ | 9 - 3 | × |
| バスケットボール | 男 | × | 44 - 47 | ○ |
| | 女 | ○ | 75 - 47 | × |
| バレーボール | 男 | ○ | 2 - 1 | × |
| | 女 | ○ | 2 - 0 | × |
| バトミントン | 男 | ○ | 3 - 2 | × |
| | 女 | ○ | 5 - 0 | × |

| 種 目 | | 滋 賀 | | 浜 松 |
|---------|---|-------|-------|-----|
| ヨット | | ○ | | × |
| ボート | | ○ | | × |
| ハンドボール | | ○ | 28-17 | × |
| 空手道 | | 試合不実施 | | |
| ゴルフ | | ○ | | × |
| 水 泳 | 男 | △ | 引き分け | △ |
| | 女 | △ | 引き分け | △ |
| 総 合 結 果 | | | | |
| 滋 賀 | | 11 | 対 3 | 浜 松 |

※ 通算 (滋賀医科大学) 20勝14敗6引き分け





浜松医科大学との交流会に参加して

委員長 医学科第4学年 **五島 隆太**

まず始めに、交流会を開催するに当たりご尽力いただきました先生方、職員の方々、生協の林様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

今年で40回目を迎えるこの交流会ですが、浜松医科大学の学生が本学の学生の呼びかけに応じて始まった、という経緯があります。学校全体での行事でありながらもあくまで学生主体で開催されるこの交流会に委員長として携わせていただき、大変名誉なことと思います。当初、何も Vision がなかなか持てない中でやり通せられて安堵しています。

今年は本学での開催ということで学生側の取りまとめをさせていただきました。どこで何が行われるのか、どのくらいの人数が参加するのか、レセプションの食事の量はどれくらいがいいのかなど、全員に満足してもらうためにどうすればいいのか考えるのが大変でしたが、当日には大きな問題もなく皆が楽しんでいる様子を垣間見ることができて良かったです。さまざまな準備に始まり当日に至るまで多くの方に協力をお願いしたのですが、皆快く手助けしてくれたことはとても

頼もしくそして嬉しく思いました。私一人だけでは到底出来るものではありませんでした。

私は今回の交流会委員を通じて、学生同士が協力すればこのような大きな行事も実行できるのだということを知りました。これは、私達の学生生活にもいえることだと思います。将来に向けて一人一人が自主的にそして協力して行動するという事で大きな成果を生むことが出来るのではないのでしょうか。

2日間大きな事故もなく、無事交流会を終えることができ、ご協力くださった皆様に改めて御礼申し上げます。また後輩たちには来年以降も素晴らしい交流会が開催できるように頑張ってもらいたいと思います。



体育会長 医学科第4学年 **杉本 陽**

浜松医科大学との交流戦も今年で第40回となりました。この記念すべき交流戦を、開催校の体育会長として迎えることができ、大変光栄に思います。とは申しましても、今回の交流戦の運営に関しては、体育会幹部（交流戦担当）の五島君がたいへん尽力してくれました。ご協力いただいた両校の先生方や職員の方々へこの場で感謝を申し上げたいと思います。

開催を直前に控え悪天候の予報を耳にし、実施できない競技が出てくるかもしれないと心配しておりました。しかし、一日目はこれ以上ないというほどの晴天、二日目も午前中だけ雨が降るというくらいですみ、野外競技も無事に実施できたようで大変喜ばしく思います。交流戦の結果としては11勝3敗2引き分けと、開催校として恥ずかしくない結果を残すことができたように思います。

私自身としては四度目の交流戦となりましたが、浜松医科大学の仲間には毎年刺激をもらっています。開会式でのあいさつで申し上げたように、両校の各クラ

ブ、各部員にとって、この交流戦はとても意義深いものとなっていると感じています。自分たちの実力を実感し、夏の大会に向けてさらにモチベーションを上げていくよい機会であると思います。この交流戦で得たことが、両校の活躍につながることを期待しています。



リーダーズ研修

本学では課外活動を有意義に発展させ、リーダーとしての自覚と認識を高めると共に、課外活動団体の相互理解を深めることを目的として、毎年、リーダーズ研修を開催しています。

平成 26 年度は去る 3 月 4 日（水）、各課外活動団体の代表者（キャプテン）40 名の参加の下、クリエイティブモチベーションセンターにおいて実施されました。

当日は、堀池副学長の開講挨拶にはじまり、本学卒業生でヨット部 OB の浜本 徹学内講師（救急集中治療医学講座）による救急蘇生に関する講習（AED 講習）と同じく本学卒業生の相見 良成准教授（解剖学講座）による講演がありました。

相見准教授による講演では、「想像力と創造力」と題して課外活動における危険回避等について、参加した学生が意見を出し考える内容で行われました。

また、班別討議では学生が 5 班に分かれ、用意されたテーマと自ら提案したテーマについて各班で現状や問題点について話し合うなど充実した内容の研修となりました。



リーダーズ研修に参加して



文化会長 医学科第4学年 **森 太平**

今年も体育会及び文化会の各部活の代表者を対象に、リーダーズ研修会が行われました。研修会を通じて私はリーダーとしての自覚と認識を高めるとともに各サークルの相互理解を深めることができ、非常に有意義な一日となりました。

浜本先生による救急蘇生講習では、AED の使用方法や心肺蘇生法を指導していただきました。部活動中に事故が起きたとき、リーダーとして、また医学生としてとるべき相応しい行動を学ぶことができました。また、リーダーとして部員の命を背負う責任感を改めて実感しました。

グループ討議では、部活動の問題点や改善点について部の代表同士が意見を出し合いました。アドバイザーの教職員の方の助言もいただきつつ、どうすればよりよい部活にできるのかを考える有意義な場になりました。

相見准教授からは「卒業式の胴上げ」におけるその危険性についての講義をしていただきました。リーダーとして医療者として絶対に起こしてはならないことの徹底、安全性への考慮を学びました。

今回のリーダーズ研修は、各部活の代表者の意識が高まり、部活動の発展につながる非常に実りのある研修でした。この経験を生かしてリーダーとして更なる成長ができればと思います。



医師・保健師・助産師・看護師 国家試験の結果

第109回医師、第101回保健師、第98回助産師、第104回看護師の各国家試験の合格発表が平成27年3月に行われ、滋賀医科大学の合格状況は次のとおりでした。

保健師・助産師・看護師の合格率は100%でした。なお、いずれの合格率も全国平均を上回る結果となりました。

第109回 医師国家試験

平成27年2月7日(土)・8日(日)・9日(月)実施

| | 卒業 者 | 受 験 者 | 合 格 者 | 合 格 率 | 備 考 |
|-------|-------|-------|-------|-------|----------------|
| 新 卒 者 | 104 名 | 103 名 | 96 名 | 93.2% | 全国 受験者 9,057 名 |
| 既 卒 者 | | 8 名 | 7 名 | 87.5% | 合格者 8,258 名 |
| 計 | | 111 名 | 103 名 | 92.8% | 合格率 91.2% |

参考 前回 第108回医師国家試験の結果

| | 卒業 者 | 受 験 者 | 合 格 者 | 合 格 率 | 備 考 |
|-------|------|-------|-------|-------|----------------|
| 新 卒 者 | 95 名 | 95 名 | 88 名 | 92.6% | 全国 受験者 8,632 名 |
| 既 卒 者 | | 10 名 | 8 名 | 80.0% | 合格者 7,820 名 |
| 計 | | 105 名 | 96 名 | 91.4% | 合格率 90.6% |

第101回 保健師国家試験

平成27年2月20日(金)実施

| | 卒業 者 | 受 験 者 | 合 格 者 | 合 格 率 | 備 考 |
|-------|------|-------|-------|--------|-------------------|
| 新 卒 者 | 70 名 | 70 名 | 70 名 | 100.0% | 合格率 (全国) 99.4% |
| 既 卒 者 | | 1 名 | 1 名 | 100.0% | |
| 計 | | 71 名 | 71 名 | 100.0% | |

参考 前回 第100回 保健師国家試験

| | 卒業 者 | 受 験 者 | 合 格 者 | 合 格 率 | 備 考 |
|-------|------|-------|-------|-------|-------------------|
| 新 卒 者 | 68 名 | 67 名 | 66 名 | 98.5% | 合格率 (全国) 86.5% |
| 既 卒 者 | | 0 名 | 0 名 | — | |
| 計 | | 67 名 | 66 名 | 98.5% | |

第98回 助産師国家試験

平成27年2月19日(木)実施

| | 受 験 者 | 合 格 者 | 合 格 率 | 備 考 |
|-------|-------|-------|--------|-------------------|
| 新 卒 者 | 8 名 | 8 名 | 100.0% | 合格率 (全国) 99.9% |
| 既 卒 者 | 0 名 | 0 名 | — | |
| 計 | 8 名 | 8 名 | 100.0% | |

参考 前回 第97回 助産師国家試験

| | 受 験 者 | 合 格 者 | 合 格 率 | 備 考 |
|-------|-------|-------|--------|-------------------|
| 新 卒 者 | 8 名 | 8 名 | 100.0% | 合格率 (全国) 96.9% |
| 既 卒 者 | 0 名 | 0 名 | — | |
| 計 | 8 名 | 8 名 | 100.0% | |

第104回 看護師国家試験

平成27年2月22日(日)実施

| | 受 験 者 | 合 格 者 | 合 格 率 | 備 考 |
|-------|-------|-------|--------|-------------------|
| 新 卒 者 | 60 名 | 60 名 | 100.0% | 合格率 (全国) 90.0% |
| 既 卒 者 | 1 名 | 1 名 | 100.0% | |
| 計 | 61 名 | 61 名 | 100.0% | |

(注) 新卒者中10名は3年次編入学者で、既に合格済。

参考 前回 第103回 看護師国家試験

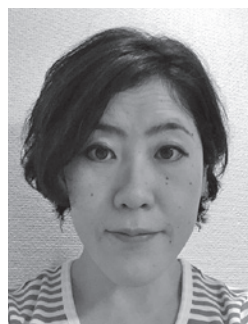
| | 受 験 者 | 合 格 者 | 合 格 率 | 備 考 |
|-------|-------|-------|--------|-------------------|
| 新 卒 者 | 57 名 | 56 名 | 98.2% | 合格率 (全国) 89.8% |
| 既 卒 者 | 3 名 | 3 名 | 100.0% | |
| 計 | 60 名 | 59 名 | 98.3% | |

研究医養成コース活動紹介

生理学講座(統合臓器生理学部門)編

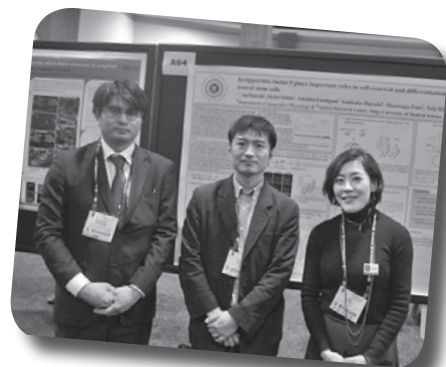
研究医養成コースでは、基礎系研究医の養成のため、研究サークル等、学生の主体的な探究活動をサポートしながら、課外活動としての研究の場を提供しています。

今号では、研究医養成コースに登録し、「夢を生きる女性のための教育・訓練賞(旧・ソロプチミスト女性に機会を与える賞)」を受賞した黒田杏理さんと指導教員の生理学講座(統合臓器生理学部門)等誠司教授にどのような活動をしているのか紹介していただきます。



「夢を生きる女性のための
教育・訓練賞」を受賞！

医学科第6学年 黒田 杏理
所属研究室 生理学講座(統合臓器生理学部門)
指導教員 等 誠司 教授
研究テーマ 神経の初期発生におけるKlf5遺伝子の機能について



2015年S F N (国際学会)にて

Q. 「夢を生きる女性のための教育・訓練賞」で評価されたことはなんですか？

A. 学業成績が優秀で夢や目標がある女性として評価された、とソロプチミスト会員の方から言われました。

Q. 研究テーマを選んだ理由について教えてください。

A. 正直なところ、現在取り組んでいる研究テーマについて選んだ頃は、研究に関して本当に素人同然で、何をすればよいのか全くわからない状態だったので、等先生に勧められた内容をそのまま選びました。ただ、等先生の講義で、神経に関する研究はおもしろいなあ、と思っており、特に神経の初期発生において神経幹細胞が移動することが当時の私には非常に驚いた点だったので、その時期の細胞を扱いたいという要望は伝えたいと思います。



ソロプチミスト滋賀支部の会長と

Q. 実験で苦労すること、やりがいを感じることを教えてください。

A. 苦労する点は、実験の経験が浅く、実験手技が確立できていないため必ずしも思うような実験結果が出ないことです。また、実験を行う時間が取れないこともあり苦労します。有意差のあるデータが出た時にやりがいを感じます。また、研究成



登録研究医コースの学生や等先生、縣先生と一緒に

果を学会で発表する機会を得た時も達成感を感じます。

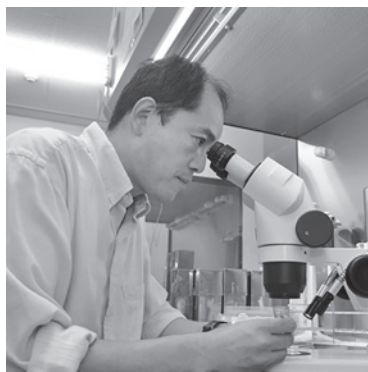
Q. 学生生活と研究活動との両立の工夫について教えてください。

A. 私は、授業、研究の他にも部活やバイトなど、とにかく気が多く、やりたいことがたくさんあるので、どれも、あまり完璧を目指さないようにしています。その代わり、何か新しいことに興味を持った場合にはアグレッシブに何でも取り組んでみるようにしています。ただし、これはあくまでも、私に合った物事への取り組み方なので、自分に合ったやり方を模索するのがベストだと思います。

Q. 将来の夢はなんですか？

A. 研究医として生計を立てることです。

指導教授と参加講座の紹介



生理学講座(統合臓器生理学部門)教授 等 誠司

研究分野 幹細胞生物学、神経発生

主な担当科目 神経生理学、臓器生理学Ⅰ、臓器生理学実習Ⅰ



(1) 研究室紹介

神経内科医として神経疾患、特に脱髄疾患を診療してきた経験を背景に、再生医療を目指して神経幹細胞の研究を始めましたが、現在では胚の初期発生から精神疾患の病態解明まで、多岐にわたる課題に取り組んでいます。特に、受精から初期胚発生における細胞の運命決定のメカニズム、神経幹細胞からオリゴデンドロサイトが分化する分子機構、成体脳における神経幹細胞-細胞新生システムと脳高次機能・精神機能の関係などを、エピゲノム修飾の観点から理解したいと考えています。研究室のスタッフは、それぞれが得意な実験手法を駆使し、互いに協力しながら複数の課題をもって精力的に実験を進めています。

(2) 研究室の日々の活動

研究室では、得られたデータに対して討議するミーティングを隔週で行っています。水曜日の午前ですので、学期中は学生の参加は難しいですが、講義のないときや休暇中には、学生も自分のデータを持ち寄ってディスカッションを行っています。

隔週の月曜夕方方には、分子生理化学部門(縣教授)・動物生命科学研究センター(依馬教授)のラボと合同で抄読会を行っています(詳細は研究室ホームページへ)。また、3ヶ月に1回のペースで3ラボ合同リトリートを開催しています。他の研究室からも徐々に参加者が増えて現在では30名近くになり、分野を超えて熱い議論が戦わされています。

(3) 登録研究医の学生の研究紹介

私の研究室には、学生指導を本務とする特任助教が配置されており、基本的な実験手技の講習も行っています(右の写真)。その甲斐もあってか、黒田さんは3年生の時から少しずつデータを蓄積することができました。教室スタッフのデータも合わせて、国際学会でポスター発表ができたのは、黒田さんにとっても貴重な経験になったと思います。他にも、1年生の時から研究室に出入りして自分の実験を行っているものもあり、間もなく国際学会に発表する予定です。概ね、3年間程度着実に実験すれば、国際学会での発表の機会があるでしょう。

(4) 学生へのメッセージ

研究は、博士号をとるだけのために義務的にやるものではなく、楽しく充実感を得られなければやる価値がありません。ですから、初心者は初心者なりに、個々の実験がうまくいけば喜びがあるでしょうし、上級者になれば、自分のアイデアを世界に発信する面白さがあります。実験データという絵の具で自分の世界観を描く、最も創造的な活動の1つなのです。経験がないからといって躊躇う必要はありません。私の研究室に生息する登録研究医の半数は、文系出身者です。新しいことをやってみたい、好奇心旺盛な学生を歓迎します。

新入生
歓迎企画

本学教職員が薦める この本2015

新入生、新規採用職員の皆さん、滋賀医大へようこそ！

図書館では、良き医療人を目指し、これから本学で学ばれる皆さんのために、7名＋1センターの先生方から図書を推薦いただき、展示する企画を開催しました。(2015年4月2日-5月22日)

展示図書は、すべて図書館で所蔵しています。
ぜひ実物も手に取ってご覧ください。



人間臨終図巻 / 山田 風太郎 著

歴史上の人物や著名人など923人の10代から121歳までの死に様とそれにまつわるエピソードが面白く書かれている。ドラマチックな死、悲しい死、意外な死、など百人百様だが、「死に様は生き様」と実感できる。著者が医学生時代の日記「戦中派不戦日記」も必読。

蠅の帝国：軍医たちの黙示録 / 帚木 蓬生 著

太平洋戦争に従軍し、あるいは戦時下に治療に当たった軍医や医学生の手記に基づくヒューマンな小説。医師の眼を通した戦争の記述が秀逸であるが、感情移入を排した文体が却って読者に様々なことを考えさせる。姉妹編「蛍の航跡：軍医たちの黙示録」のほか、「閉鎖病棟」「臓器農場」「インターセックス」などの医療小説も面白い。

TED 驚異のプレゼン / カーマイン・ガロ 著

YouTubeやNHK Eテレ「スーパープレゼンテーション」でおなじみの「TED」プレゼンを分析し、成功するプレゼンとは何か、を論じた書。重要なのはテクニックではなく「何を伝えたいか」と話し手の情熱である、ということが改めてわかる。



学 長
塩田 浩平

青が散る / 宮本 輝 著

椎名燎平は、茨木市に新設された私立大学の一期生として入学。テニス部の創設に参加し、コート作りから始める。その仲間たちとの青春の日々。芥川賞作家（「蜚川」で受賞）である作者はいう、「道頓堀川」は私の青春の`夜`、「青が散る」は`昼`と。私は井上陽水の歌う「傘がない」を連想した。

移動祝祭日 / アーネスト・ヘミングウェイ 著

ノーベル文学賞作家の最晩年の作品。“ロスト・ジェネレーション”の人々との交遊などパリでの青春の日々の回想記。ヘミングウェイはいう、「もし幸運にも、若者の頃、パリで暮らすことができたなら、その後の人生をどこですごそうとも、パリはついてくる。パリは移動祝祭日だからだ」と。

パリ（ヨーロッパ）に行く前にはこの本と「日はまた昇る」を読もう。林芙美子「下駄で歩いた巴里（パリ）」（岩波文庫）もおすすめ。彼女は昭和の初め（ヘミングウェイとほぼ同時期）帰国の旅費も持たずにシベリア鉄道経由でパリに行き8ヶ月住んだ。一つひとつの情景・状況の切り取り方、また彼女自身の行動がさすが文学である。

朗読者 / ベルンハルト・シュリンク 著

15歳の少年ミヒャエルと母親のような年上の女性ハンナとの出会い。その女性は「なにか朗読してよ、坊や！」といつもせがむ。そんなハンナの突然の失踪。再会したのがなんとハンナが戦犯として裁かれる法廷。彼女の秘密は何か。二人がとったそれぞれの選択（行動）は何か。

作者は当時ベルリン・フンボルト大学の法学部教授。二十以上の言語に翻訳された世界的ベストセラーで、再読者が多いとのこと。

「〇〇文庫解説目録」や「〇〇新書解説目録」（おまけ）

わずか数百字でその本の内容を紹介している。目録を読むだけで楽しくなる。
しかも書店でタダでもらえる。



副学長
堀池 喜八郎

ユマニチュード入門 / イヴ・ジネスト、ロゼット・マレスコッティ 著 本田美和子 訳

2014年12月、著者である本田美和子先生、イヴ・ジネスト先生を本学へ招聘し、認知症ケアの新しい技法として注目の「ユマニチュード研修」を開催しました。そこで繰り広げられたのは、認知症ケアにとどまらず、医療者として、人として、他者にかかわる時に必要な technique でした。

様々な機能が衰えても、病いを抱えていても、患者さんとそのご家族が最期の日まで尊厳をもち、大切にされる存在と実感して生きていくために、どうかかわるのか。この著書ではわかりやすく記されており、普段の自分のコミュニケーション方法を振り返るきっかけになると思います。医師や看護師を含め、縁あって滋賀医科大学に入学、入職した方々にぜひ手にとっていただきたい1冊です。



看護臨床教育
センター

■ 銃・病原菌・鉄 / ジャレ・ド・ダイヤモンド 著

この本のテーマは、大陸によって文明の発達が異なった原因はなにかというものです。分子生理学、進化生物学を専門とする著者は、地理的・気候的な環境の差異が安定した食料生産力の違いを生み、ひいては各大陸の民族が異なる歴史をたどる決定的な要因となったことを、生物学、地質学、疫学、言語学などを用いた様々な考察から示しています。1998年ピューリッツァー賞受賞作。

歴史に興味がある人には『疫病と世界史』（ウィリアム・マクニール、新潮社、中公文庫）も薦めます。

推薦者



物理学
目良 裕 教授

■ 理科系の作文技術 / 木下 是雄 著

わかりやすく論理的な文章を書くために必要なこと、気をつけなければならない点を網羅した古典的名著です。できるだけ多くの人に読んでもらいたいと思います。

■ ころ / 夏目 漱石 著

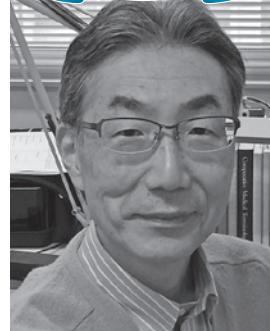
■ 高瀬舟 / 森 鷗外 著

鷗外、漱石は2大文豪である。作品は100年経っても色あせていない。大学入学を機に、もう一度文豪の作品に触れて人間として生きることを考えてはどうだろうか。特に、鷗外の「高瀬舟」と漱石の「ころ」には、医療人を志す者が決して忘れてはならない心構えが描かれている。

「高瀬舟」の中で、ある囚人の生きることに對する謙虚さに対して主人公は「神」を感じるのである。この生きることに對する謙虚さは、医療人を志す者が決して忘れてはならないものである。「ころ」では、「先生」は利己と利他の間で苦しみ、死を選ぶ。人のために自分を捨てることの難しさが伝わってくる。しかし、医療人を志す者は人のために自分を捨てるという最も崇高で困難な行為を行う覚悟が必要である。

「謙虚さ」と「自己犠牲」をもう一度考え直すために、「高瀬舟」と「ころ」を読んで新しい門出にしてほしい。

推薦者



疾患制御病理学
小笠原 一誠 教授

■ わたしがあなたを選びました / 鮫島 浩二 著

■ 生んでくれて、ありがとう / 葉 祥明 著

助産師として勤務した約8年間……子どもを心から受入れ、愛おしみながら母親としての第1歩を踏み出すことのできる女性ばかりでないことを経験してきました。母親になる前に、宿った命をなくしてしまうことを決断したり、母親になれたとしても離れて生きることを選択したりする母子関係について、たくさんたくさん考えてきました。

助産師として何ができるだろう。お腹のなかの胎児にだって生きる権利があるし、もっとお腹のなかのわが子に目を向けて考えてほしいと願っていた私が、ブックストアで手にして一気に読んだ2冊の本です。

子どもは母親を選んで生まれてくること、そして母親や家族に生んでくれたことを感謝しているメッセージを読んで、子どもを産むことの意味についてあらためて深く考えるきっかけになりました。女性としても、新しい命と向き合うことのできる本です。

推薦者



臨床看護学（母性・助産）
立岡 弓子 教授

📖 予防医学のストラテジー：生活習慣病対策と健康増進

/ ジェフリー・ローズ 著

著者であるロンドン大学の故ローズ教授は、私の専門分野である疫学研究の大先輩です。この本は現代の予防医学の基本的な考え方である「ポピュレーション戦略とハイリスク戦略」を提唱した1993年発行の名著の翻訳であり、「疫学」の視点からとてもわかりやすく書かれています。私が疫学の世界に入ったところにこの本に出会い、読みながら目からウロコがぼろぼろと何枚も落ちたのを覚えています。ローズ教授は定年後に牧師になられた清廉な方でもありました。英語の原書 **Rose's Strategy of Preventive Medicine** (Geoffrey Rose 著 / OUP Oxford) を読まれるのもお勧めです。

推薦者



公衆衛生学
三浦 克之 教授

📖 街道をゆく1 湖西のみち / 司馬 遼太郎 著

滋賀医大に赴任してから、比較的最近出会った本です。有名な歴史小説家の司馬遼太郎による紀行エッセイ集である「街道をゆく」シリーズは43巻にも及ぶものですが、その第1巻の最初が「近江」なのです。「『近江』というこのあわあわとした国名を口ずさむだけでもう、私には詩がはじまっているほど、この国が好きである。」という文で始まります。シリーズにはほかに「街道をゆく7 甲賀と伊賀のみち」「街道をゆく16 叡山の諸道」「街道をゆく24 近江散歩」があり、滋賀県シリーズをワクワクしながら読破しました。歴史と文化と自然、そして心優しい人に恵まれた滋賀がとても好きになる本です。

📖 城砦 / A. J. クローニン 著

「城砦」はスコットランド出身の医師である A. J. Cronin (クローニン) によるもので、かつて「世界の十大ベストセラー」に数えられた半自伝的作品です。社会の濁流に投げ出された青年医師マンスンが、個人や社会の不正や不当な評価と闘いながら絶えず正しい魂の火を守り、妻や少数の友に支えられて困難に立ち向かって行く姿に、憧憬と共感を覚え勇気づけられます。英国に留学した私には懐かしい地名が随所に引用され、紐解く度に異なった感動を覚えます。既に一世紀前のロンドンで、医師と薬品メーカーの癒着や医療における専門性の弊害が問題視されていたことも極めて興味深く、医療に関わる全ての方に読んでほしい作品です。

今日、特に大学人には「高い倫理観」と「自分に対する厳しさ」が求められていることは言うまでもありません。私より年長の医師で医学界・医療界のリーダーとなっておられる方のほとんどは「城砦」を読んでおられるはずです。読者がその時の感動を持ち続け実践されておれば、大学だけでなく我が国の臨床および基礎研究に対する信頼を著しく失墜させた一連の論文捏造問題は起こらなかったのではないかと思います。

クローニンの作品には「父と子」「母と子」「宗教と信仰心」「隣人愛」等を扱った秀作が数多くありますが、現在、我が国の医学界・医療界が混乱を極めているだけに、敢えて「城砦」を本学の将来を担う若い学生・職員に「祈り」を込めて薦めたいと思います。

推薦者



小児科学
竹内 義博 教授

ご協力いただいた先生方、ありがとうございました！

平成26年度 卒業式

平成 26 年度卒業式は、3 月 10 日（火）午前 10 時から本学体育館において挙
行され、学長から次のとおり告辞がありました。

告 辞

学 長 塩田 浩平

本日ここに、ご来賓各位並びに本学教職員のご
臨席を賜り、平成 26 年度滋賀医科大学卒業式を
挙行できますことは、大きな喜びであります。

医学科 35 期生 104 名、看護学科 18 期生 70 名
の卒業生の皆さん、本日はおめでとうございます。
ご家族の皆様方にも、心よりお祝いを申し上げます。

皆さんは、本日学士を得て本学を卒業されるわ
けですが、この日を迎えるに至ったのは、何より
も皆さん自身のたゆまぬ努力によるものですが、
同時にこれまで皆さんを育て支えてくださったご
家族の方々、そして皆さんを指導し励ましてこら
れた多くの師や友人のおかげでもあります。その
ことに、今日もう一度感謝していただきたいと思
います。

医学科の皆さんは 6 年間、看護学科の皆さんは
4 年間の学生生活をこの滋賀医科大学で過ごされ
たわけですが、医学科の皆さんが 2 年生、看護学
科の皆さんが本学に入学直前の 2011 年 3 月 11
日に東日本大震災が起きました。この大震災で
は、地震と津波によって 1 万 8 千人以上もの死者・
行方不明者が出、また福島原発の事故が未だに多
くの人々を苦しめ続けています。現在でも被災地
の様子を知りますと、被害の甚大さと復興が進ん
でいない現状に心が痛みます。皆さんは、大学在
学中または入学直前に東日本大震災と福島原発事
故という未曾有の出来事を体験あるいは見聞きし
て様々な影響を受け、中にはボランティア活動に
参加した人もあるでしょうし、これらの出来事で



人生観が変わったという人もいるかもしれません。
そして、すべての皆さんが、被災者の方々のため
に自分に何ができるかを考えたことと思います。
そのようにして、他者を思いやることは、医療の
世界で最も重要なことの一つであります。今後、
患者さんやその家族に向き合うときに、この「他
者を思いやる」という心を常に忘れないでいただ
きたいと思います。

また、今年の 1 月 17 日は、阪神淡路大震災か
ら 20 年目でもありました。わが国、そして世界
の自然は近年不安定さを増し、日本列島で火山活
動が活発化しているという分析もあります。一方、
政治経済の分野でも世界規模で重大な出来事が起
こり、国際緊張が高まっています。

皆さんが社会へ出ようとするいま、日本も国際
社会も多事多難のように見えますが、振り返って
みますと、第二次世界大戦後の約 50 年間は、大
きな災害や戦争が少なく、社会が比較的平穏であ
った、歴史上でも稀な時期でありました。その中で、
特に日本では、みんなが一時的な「安全神話」「成

長神話」に酔っていたとも言えます。これから皆さんが生きていく世の中では、おそらく我々がこれまでに経験したことの無い大きな変化と変動が待ち構えています。ぜひ困難を克服し、皆さんの力で希望の持てる未来社会を築くように努力していただきたいと思います。

皆さんがこれから関わる医学・医療の世界も、これから大きく様変わりすることが予想されます。その最大の理由の一つが、わが国の急速な人口高齢化です。10年後には、わが国の4人に1人が75歳以上となる超高齢社会が到来します。これに伴い、疾病構造が変化するとともに、医療費や介護費用が国家財政を圧迫することが確実視されています。日本の総医療費は2011年に約38兆円でしたが、2025年にはそれが53兆円に達するとの予測があります。介護のための費用は現在9兆円ほどですが、これも10年後に倍以上となります。国の税収の半分あるいはそれ以上が医療・年金などの社会保障に消えていくという、大変な時代が到来します。そうなりますと、医療のあり方も、医師やその他の医療従事者に期待される役割も今とはかなり様変わりするでしょう。これまでのように病院で患者さんが来るのを待って治療するだけでなく、社会へ飛び込んで医療活動をする機会が増えるでしょうし、疾病を予防し健康寿命を保つ手助けをする仕事など、今よりも多様な医療活動が求められるようになると思われます。また、国境を越えて医療活動をする機会も増えてくるでしょう。

もう一つは、加速する科学技術の影響があります。近年ICT化、つまり情報と通信技術の進歩によって、あらゆる生活の場にコンピュータやロボット技術が入ってきています。コンピュータ技術や人工知能の進歩は目覚ましく、近い将来、いまホワイトカラーが担っている仕事のかなりの部分が機械で代替されるようになり、現在の小学生世代の半分以上が今は存在しない新しい仕事に従事するという予測もあります。そうなったときに、人間に残されるのは、より高度な知的労働か、あるいはコンピュータに使われる下請け的な労働に二分されるといわれています。

当然、医療や介護の分野でもICT化が進み、診断や治療の技術が格段に変化すると考えられます。膨大な検査データから病気の診断をつけ、それに基づいて最適の処方を書く、という作業はコ

ンピュータの得意技ですから、現在の医師の仕事の一定部分も機械がするようになると思われます。そうすると、単に多くの知識を持っているだけでは意味がなくなり、診察室でコンピュータの画面ばかりを見て患者と対話しないような医師は存在価値がなくなるでしょう。医療において、コンピュータができない仕事、例えば、その医師にしかできない卓越した治療、優れた人間性に裏打ちされた患者のケア、などが、医療従事者に求められるようになると思われます。皆さんには、こうした新しい時代の医学・医療を開拓し、それを発展させていく旗手になっていただくことを期待いたします。

おめでとうございます卒業式の場合、私は将来の負の側面を少し強調しすぎたかも知れませんが、いつの時代にも、青年の前途には希望と不安が入り交じっているものです。これからの社会で起こる新しい問題の多くは、従来の常識や人類がこれまでに学習してきた解決法が役に立たない可能性が大きいのですが、それだけに、若い人々にとっては未知の世界に挑戦し、新しい時代を切り拓いていく面白さがあります。これからも、たゆまず勉強し自ら考えて判断できる人間として、大きな課題に果敢に挑戦してってください。

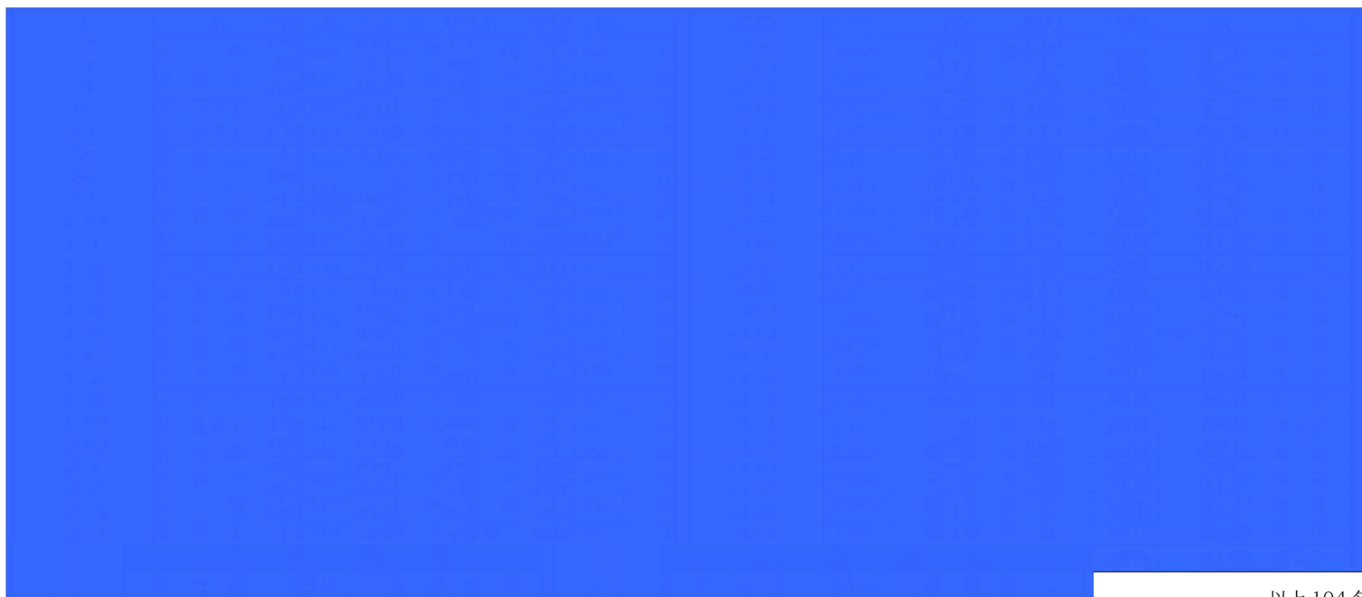
皆さんの中には、滋賀医科大学で臨床研修などに従事する方と、外部の医療機関や大学へ出て働く方があります。どこで働く場合も、皆さんが大学生活を共にした同級生や先輩・後輩は、一生の友人であり、将来にわたってのよき相談相手であります。そして、滋賀医科大学とその同窓会である湖医会は、卒業後も皆さんの活動を応援していきます。皆さんは、この滋賀医科大学を巣立っても、この大学で培った人的ネットワークを大切に、折に触れてこのキャンパスを訪れてください。皆さんのこれからの人生が希望に満ちた実り多いものになることを心からお祈りして、私の祝辞といたします。

平成27年3月10日

医 学 科



■平成 26 年度医学科卒業生



以上 104 名



看護学科



■平成 26 年度看護学科卒業生

以上 70 名



■卒学生謝辞

■記念品贈呈

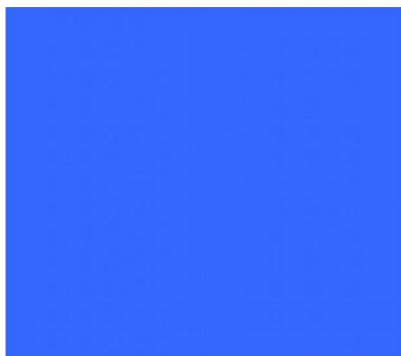
■学生表彰



平成26年度 学位授与式

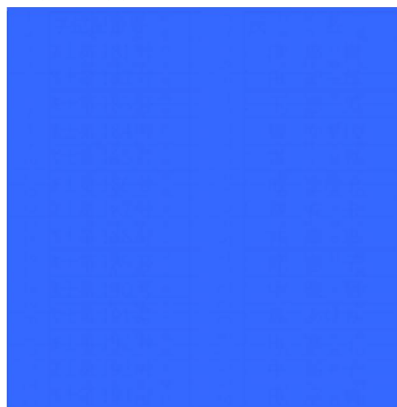


■博士（課程）12名



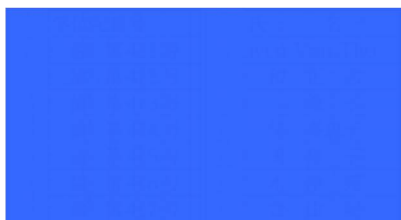
(学位授与日：平成 27 年 3 月 10 日付)

■修士課程 14名



(学位授与日：平成 27 年 3 月 10 日付)

■博士（論文）7名



(学位授与日：平成 27 年 3 月 10 日付)



平成26年度 学位論文学長賞等授与式

平成26年度に学位記（博士）（修士）を授与された者の中から、特に優秀な学位論文を発表した2名に、3月10日（火）の学位授与式において塩田学長から表彰状と副賞が授与されました。

また、滋賀医科大学シンポジウムの各賞・ベストティーチャー賞・優秀研究者・Doctor of the Year, 2014の各賞の受賞者に表彰状と副賞が授与されました。



博士論文学長賞

受賞者名 劉 磊

論文題目 The FAM3 superfamily member ILEI ameliorates Alzheimer's disease-like pathology by destabilizing the penultimate amyloid- β precursor (FAM3 スーパーファミリーメンバー ILEI はアミロイド β の直前の前駆体を不安定化することによりアルツハイマー病様病理を軽減させる)

修士論文学長賞

受賞者名 片 寄 亮

論文題目 一地域在住高齢者における身体的・精神的・社会的健康の維持とペット飼育との関連の横断的検討—K町悉皆調査—

開学40周年記念・滋賀医科大学シンポジウムの各賞

若鮎賞 福 家 聡

開学40周年記念賞 北 川 善 紀

奨励賞 杉 浦 周 嗣、Thang Phung Manh

ベストティーチャー賞

臨床看護学講座（母性・助産）教授

立 岡 弓 子

優秀研究者表彰

内科学講座

呉 捷



Doctor of the Year, 2014

医師臨床教育センター

新 田 信 人



名誉教授の称号授与

学校教育法第 106 条の規定により、滋賀医科大学名誉教授の称号が下記の先生に授与されました。

平成 27 年 4 月 1 日 元教授 木 村 隆 英

平成 27 年 4 月 1 日 元教授 工 藤 基

第38回解剖体納骨慰霊法要・納骨式

5 月 30 日（土）午前 10 時 30 分から、比叡山延暦寺阿弥陀堂においてご遺族、ご来賓、しゃくなげ会会員および学生、教職員総勢約 450 名が参列し、第 38 回解剖体納骨慰霊法要が執り行われ、故人のご冥福をお祈りしました。

法要の中で、塩田学長から今回お祀りした 48 柱の御霊及びご遺族に対し、慰霊と感謝の意が述べられるとともに、将来医師になる学生にとって、人体構造を知る解剖学実習は非常に貴重な授業であり、また、倫理教育上も大きな意義を持ち、ご献体に接することによりその尊い御遺志に感謝することが大切であると述べられました。

続いて、学生代表の石田正平さんが、解剖学実習と

いうかけがえのない経験を通じ、医療人としての道を歩む責任の重さを感じ、故人のご遺志を胸に生涯をかけて医学の道に邁進することをご霊前に誓いました。

法要終了に引き続き、故人（献体者）に対する文部科学大臣の感謝状を学長からご遺族代表にお渡しし、併せて、学生の手によりご遺骨をお返ししました。

また、午後からは比叡山横川の大学霊安墓地において、ご遺族、ご来賓、学生等の参列の下に、納骨式が執り行われ、分骨いただいたご遺骨が納骨堂に安置されました。

当日は好天に恵まれ、たくさんのご遺族が大学の霊安墓地を訪れられ、青空の下鮮やかに咲いたしゃくなげの花を眺めながら、故人を偲んでおられました。



学生代表 石田 正平さん 慰霊の詞



学生から直接遺族へご返骨



納骨式の様子

勢多だより

SETA DAYORI

「勢多だより」の由来

勢多は勢田、世多、瀬田とも書かれるが、古代、中世の文献では、勢多が多用されている。それに勢多は「勢（いきおい）が多い」という佳字名称である。従って、いきおいが多かれと願う本学関係者の想いにぴったりということで、瀬田とせずに、あえて勢多とした。

（題字は、故 脇坂行一初代学長による）

2015年7月



編集後記

先日ウェブ上で美しい家具を見かけました。どのメーカーの制作だろうと思ったら、故丹下健三氏の作品でした。秀でた人はたとえ小さな仕事であっても独自性のある洗練された作品を生み出すものだと思います。研究も同じかもしれないなどと考えました。

滋賀医科大学に入学された学部生・大学院生の皆さんが大学生活の中で様々な分野の良いものに数多く触れることができますようにと願っています。

編集委員長 宮松 直美

勢多だより No.102

〔発行年月日〕平成27年7月10日 〔編集〕「勢多だより」編集担当者会議 〔発行〕滋賀医科大学広報委員会



滋賀医科大学
SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

学章の説明

「さざ波の滋賀」のさざ波と「一隅を照らす」光の波動とを組み合わせたもの。

「中心に向かって、外からさざ波の波動-これは人々の医への期待である。外に向かって中心から一隅を照らす光の波動-これは人々の期待に返す答えである。」

